

国語科学習指導案

1. 日時 平成27年 9月30日(水) 第5時限目(13:45～14:30)
2. 場所 第2学年1組 教室
3. 学年・組 第2学年1組
4. 単元名 音読劇をしよう
5. 教材名 「お手紙」(アーノルド・ローベル作)
6. 単元目標
 - ・登場人物の特徴をつかみ、楽しんで音読や音読劇をしようとしている。
(関心・意欲・態度)
 - ・場面の様子や、がまくん・かえるくんの心情について、想像しながら読むことができるようにする。(読むこと ウ)
 - ・がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読むことができるようにする。(読むこと ア)
 - ・文中の主語と述語との関係を理解することができるようにする。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(カ))

7. 単元を貫く言語活動とその特徴

単元を貫く言語活動として、「物語を音読劇で演じる」を設定した。本文を読みながら、登場人物の行動を動作化したり、登場人物になったつもりで会話文を読んだりすることで、本文に書かれている文字を具体的なイメージとして表現し、交流する。この活動を通して語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読したり、場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んだりする力を身につけることをねらいとする。

8. 教材観

小学校学習指導要領・国語の第1学年及び第2学年「C読むこと」の指導事項「ウ場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」を中心に指導する。

本教材「お手紙」は、手紙を一度ももらったことがないと言って悲しい気持ちになっている「がまくん」を心配した「かえるくん」が、「がまくん」に内緒で手紙を出し、お手紙を四日間一緒に待つ話で、友だちの不幸せをいっしょに悲しみ、幸せを共に喜ぶほのぼのとした心情を描いた作品である。

友だちとはどんなものなのかということについて意識し始める2年生にとって「かえるくん」「がまくん」はとても身近に感じられ、二人の温かな心の交流や優しさにも気がついていくのではないかと考えられる。児童が、自分の体験と照らし合わせながら、読みの世界を広げることができる教材であり、「がまくん」と「かえるくん」の心の交流は、読み手までも幸せな気持ちにさせる作品である。共感をもって読み取らせることをねらいとする。

9. 児童観(略)

10. 指導観

指導に当たっては、以下の点に留意したい。

二人の登場人物「がまくん」と「かえるくん」の行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきり描かれた作品である。物語の展開にそって「がまくん」と「かえるくん」の行動がどうかわっていくか読みとらせるようにする。また、お手紙を待つ二つの場面の違いを、作者の手による表情豊かな挿絵や叙述から読みとらせるなどして、細かい点にも注意しながら作品を味わうようにする。

そして、会話の多い作品の特徴を生かして、音読劇を設定し1年生に音読劇を観てもらおうという目的意識や相手意識を持つことで、音読劇に意欲的に取り組ませるようにする。

音読劇では、子どもが登場人物の行動を動作化するために、本文を何度も読む。本文を何度も読み、それを動作化して表現する。それをグループ内で話し合ったり、グループ同時で交流したりして表現を工夫することが大切である。ここで指導する上で気をつけたいポイントが2つある。

一つ目は、正しい劇があってそれに近づいていく発想ではなく、子ども個人の解釈、または話し合ったグループの解釈を大切にすることである。グループでの違いが生まれ、どうしてそのように違ったのかを交流することで想像を広げられるようにする。

二つ目は動作化するポイントを示すということである。たとえば「二人とも悲しい気分で、玄関の前にこしを下ろした」とはどういうことか、かたつむりくんは、どのようなスピードで動いたのかなど具体的に動きや言葉で表現していくことで、話を言葉だけでなく、具体的なイメージとして想像する力を育てるようにする。

さらに、登場人物の特徴をつかむため、かえるくんシリーズの並行読書に取り組み、お気に入りの作品を最後に選ぶ学習活動を入れる。

11. 単元の系統性

低学年	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	大きなかぶ・ずっとずっと大すきだよ・お手紙・スーホの白い馬 など
中学年	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を元に想像して読むこと。	ちいちゃんのかげおくり・三年とうげ・一つの花・ごんぎつね など
高学年	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。	大造じいさんとガン・わらぐつの中の神様・カレーライス・やまなし など

12. 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
登場人物の特徴をつかみ、楽しんで音読や音読劇をしようとしている。	①場面の様子や、がまくん・かえるくんの心情について、想像しながら読んでいる。 ②がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読んでいる。	文中の主語と述語の関係を理解している。

13. 単元の指導と評価の計画

時間	主な学習活動	指導上の留意点	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
1次 ①	絵本『ふたりはなかよし』を読み聞かせをし、「おてがみ」の音読劇をするという言語活動の見通しを持つ。	- 読み聞かせをしながら、興味関心をひくため、子どものつぶやきをひろっていく。 - 子どもの「おもしろい」というつぶやきから、音読劇につなげていく。 - 音読劇には、動きと音読の両方が必要なことを説明する。	ローベルの作品や、音読劇をすることに関心を持っている。 (観察)		
1次 ②	話のあらすじを確認する。	- 登場人物や挿絵を並び替えて場面を確認させる。 - 挿絵を比べ、お手紙を待つ二人の違いに気付かせる。 - 主語と述語の関係に注意して読み、だれが何を言ったのかを見つけさせる。			主語と述語の関係を理解している。 (発言・ワークシート)
1次 ③	音読劇をしてみる。	- 音読劇のイメージをつかむため、実際の音読劇を映像で観せる。 - 試しの音読劇をし、むずかしかったところを発表させ、課題を共有させる。		場面の様子や、がまくん・かえるくんの心情について、想像しながら読んでいる。 (観察)	
2次 ④	最初に二人で座っているときの音読劇をする。	実際に並んで座らせ、どのように座っているか、二人で何をしているか、手紙を書くことを思いつくまでどうしているのかななどを想像させる。	登場人物の特徴をつかみ、楽しんで音読や音読劇をしようとしている。 (観察)		
2次 ⑤	かえるくんがかたつむりくんに手紙をわたすときの音読劇をする。	実際にかたつむりくんとかえるくんがどのような会話をしたのか、かたつむりくんがどのようにしゃべったり、うごいたりするのかなどを想像させる。		がまくんやかたつむりくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読んでいる。 (発言・ワークシート)	
2次 ⑥	かえるくんがかたつむりくん(お手紙)を待っているときの音読劇をする。	かたつむりくんを待っているときのかえるくんの動きの変化を想像させる。		場面の様子や、がまくん・かえるくんの心情について、想像しながら読んでいる。 (発言・ワークシート)	
2次 ⑦	かえるくんが、がまくんにお手紙を出したことを教えたときの音読劇をする。	並行読書したシリーズ作品に描かれているがまくんやかえるくんの言動をもとに想像し、音読の仕方や動作を考えさせる。	登場人物の特徴をつかみ、楽しんで音読や音読劇をしようとしている。 (観察)		

2次 ⑧ 本時	かえるくんが、がまくんに手紙の内容を伝えたときの音読劇をする。	・並行読書したシリーズ作品に描かれているがまくんやかえるくんの言動をもとに想像し、音読の仕方や動作を考えさせる。	音読劇で、自分の思いを表現しようとしている。 (観察)	場面の様子や、がまくん・かえるくんの心情について、想像しながら読んでいる。 (発言・ワークシート)	
2次 ⑨	手紙が届くまで二人で待っているときの音読劇をする。	・二人がどのようなことをしたり、話したりして4日間待っていたのか、手紙が届いたときの様子などを想像させる。		場面の様子や、がまくん・かえるくんの心情について、想像しながら読んでいる。 (発言・ワークシート)	
2次 ⑩	音読劇発表会をして、感想を伝え合う。	・グループごと音読劇を発表する。 ・音読劇を見て、自分たちと同じところ、違うところを含めた感想を発表させる。		がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読むことができる。 (発言・ワークシート)	
3次 ⑪	「お手紙」の登場人物に向けて手紙を書くことで、学習をふりかえる。	・手紙を書きたい登場人物を選び、伝えたいことを考えて手紙を書く。	登場人物の特徴をつかみ、お手紙を書いている。 (ワークシート)		
3次 ⑫	学習を振り返る	・シリーズの中からお気に入りの作品を選び、感想を伝え合うことで学習を振り返る。	・すすんで物語を選ぶようとしている。 (ワークシート)		

14. 本時の展開

(1) 本時の目標

かえるくんがどのようにしてがまくんに手紙の内容を伝えるのか、がまくんがどんな様子で聞いているのか、それぞれの登場人物の気持ちを想像して、音読劇を作ることができる。

(2) 本時の評価規準

【関】音読劇で、自分の思いを表現しようとしている。(観察)

【読】がまくんやかえるくんの行動や心の動きを感じながら、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読んでいる。(ワークシート・観察)

分	学習活動	●指導上の留意点 ★気になる児童への手立て	評価規準【観点】(評価方法)	
			国語への関心・意欲・態度	読む能力
2	① めあての確認をする。	●全体のめあての確認と、個人で考えためあてを確認させる。		
3	② 本文の読み合わせをする。			
5	③ がまくんの「ああ」の後に続く言葉を考えて、ワークシートに書く。	●がまくんの気持ちがよくわかる言葉を書けるように想像させる。 ★挿絵をヒントに、どんな気持ちかを考えて声を出すようにさせる。		・ がまくんの様子を読み取り、気持ちを想像している。 (ワークシート・観察)
3	④ 「ああ」を言う時の、声の大きさの工夫を発表する。	●黒板の図で、自分が考えた声の大きさに名前マグネットを貼り、友だちとの意見の共有を図る。		
5	⑤ 「ああ。」の後に続く言葉を発表する。	●考えたがまくんの言葉と「ああ」の声の大きさが関連していることをみんなで確認する。		
7	⑥ ペアで話し合っ音読劇をする。	●となり同士で協力して練習し、良いところを見つけ、認め合えるように配慮する。 ★他の人の音読の工夫を参考にさせたり、工夫する文を精選して音読させたりする。	・ 音読劇で、自分の思いを表現しようとしている。 (観察)	・ がまくんやかえるくんの行動や心の動きを感じながら、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読んでいる。(観察)
10	⑦ グループで音読劇の交流をする。	●見てもらう人に、自分が工夫したところを伝えてから、音読劇をするように促す。		
5	⑧ 代表のペアが音読劇を発表する。	●良いと思ったところは、自分たちの音読劇に取り入れてもよいことを確認しておく。		
5	⑨ ふりかえり	●ワークシートに、「自己評価」と「気づいたこと・わかったこと・次にがんばっていききたいことなど」を書く。 ★音読劇について質問することで、がんばったことなどを思い出させる。		

15. 判断基準

観 点	十分満足できる	概ね満足できる	努力を要する児童への支援
国語への関心・意欲・態度	自分が感じた物語のおもしろさが伝わるように、声の出し方や <u>動き、表情</u> を工夫して音読劇をしようとしている。	自分が感じた物語のおもしろさが伝わるように、声の出し方を工夫して音読劇をしようとしている。	前時と比較して成長していることを評価したり、読む量を配慮したり、おもしろいと思ったところを聞き取ったりする。
読む能力（音読）	人物の場面の様子が伝わるように、声の大きさ、速さ、 <u>間の取り方</u> などを工夫して音読している。	人物の場面の様子が伝わるように、声の大きさ、速さを工夫して音読している。	他の人の音読を参考にさせたり、音読を工夫する文を精選したり、教師のモデルに続いて読ませたりする。
読む能力（読み取り）	<u>他の場面と関連づけて</u> 、登場人物の行動や、その時どう思っていたのかを読み取っている。	場面の経過や場所、登場人物の行動や、その時どう思っていたのかを読み取っている。	読み取りを交流させたり、教師が文を指定し、登場人物の行動等を聞き取ったりしながら読み取らせる。
言語についての知識・理解・技能	主語と述語だけではなく、 <u>修飾と被修飾</u> との関係等にも気づいている。	主語と述語の関係を理解している。	簡単な例文を使ったり、『は』『が』のカードや人物の絵カードを使ったりして、主語と述語をイメージしやすくする。